

令和3年第3回定例会 建設環境委員会 議案審査経過報告書

議案第74号 字の区域を変更することについて

○今回の字の区域変更に関して、地権者に負担がかかることはないか。

●この地区の中には居住者がなく、地権者が法務局で手続きをすることは無い。

議案第75号 令和2年度狭山市一般会計歳入歳出決算認定について 歳出4款衛生費及び8土木費並びにこれらの歳出に関連する歳入15款使用料及び手数料、16款国庫支出金、17款県支出金、18款財産収入及び22款諸収入 について

4款衛生費 1項5目環境対策費～7目上下水道費 2項清掃費

○地球温暖化対策に、パートナーシップ形成事業費があるが、パートナーシップは、誰とどのように形成しているのか。

●専門知識を有する環境団体、市民団体等との協働に力を入れ進めている。

○住宅用エネルギーシステム設置補助事業について、申請の相談があったときに、予算の不足により申請できなかった事例はあるか。

●太陽光発電システムの補助金に関しては、令和元年度の約690万円を基本にして700万円の予算を計上した。現在、太陽光発電システムが普及して価格が下がってきており、設置される方も多し。蓄電池の需要もかなり増加しており、蓄電池の価格もかなり下がってきている。予算的には、この金額が妥当と考えているが、過去には、予算終了後の問い合わせも数件あった。

○CO₂の削減のため、太陽光発電システム設置を相談した市民が、財源不足から申請に至らないということのないようにしてもらいたい、との意見。

○狂犬病予防注射の接種率は、令和元年度の66.2%から64.3%に落ちているが、この数字は妥当なのか。

●コロナの影響で集合注射が実施できない状況だったことが、接種率低下の要因の一つとなっている。飼い主には適正に1年に一度は予防接種を受けさせることが法で義務づけられており、はがき等で通知し、啓発を行っている。

○コロナ禍において集団接種ができなかったことが接種率低下の要因の一つということだが、前年は66.2%と、その差は1.9%であり、以前からあまりよい数字ではない。予防接種は飼い主の義務であるのに、3頭に1頭は未接種であることへの見解は。

●狂犬病予防接種というのは法で位置づけられており、市では、飼い主にお願いすることしかできない。飼い主の責務として接種するように、引き続きホームページなどでも周知していきたい。

○資源物集団回収促進事業費を見ると、申請団体や回収量は、コロナ禍において減りつつあるのではない

か。

●資源物の集団回収については、令和2年度の実績で登録団体が159団体であり、令和元年度に比べると8団体の減となっている。回収量についても、令和元年度の実績が2,497トンであったのに対して、令和2年度の実績が2,033トンであり、約18.6%の減となっている。

○コロナ禍の中において、集団回収事業促進の考えは。

●資源物の集団回収促進事業については、行政回収と事務が重複しているという話もあるが、これまで根強く取り組まれてきており、市民にとっても市からの補助金が交付されるというメリットもあり、今後とも進められていくものと思う。ごみ全体量を減らすことは、狭山市にとって必要なことだと考えており、集団回収はごみ減量の啓発にも関わってくることなので、引き続き積極的に取り組んでいきたいと思っている。

○コロナ禍において集団回収は減少しているが、感染対策のガイドラインを作成するなど自治会や各種団体と手を携え、積極的に推進されたい、との意見。

○コロナ禍において、奥富・稲荷山環境センターにおける業務はどうであったか。

●コロナ禍が長い間続いており、ごみも多く、新型コロナウイルスにさらされる危険も多くなった。衛生環境には十分注意し、うがい、手洗い、密にならないよう別々に仕事する等、職員、委託業者ともに気をつけ、現在のところ、休まずに処理業務を継続している。

○令和2年度において、リサイクルプラザはどのように稼働したのか。

●緊急事態宣言等が発令され、令和2年4月1日から6月18日までと、令和3年1月9日から3月31日まで閉所したので、令和2年度については162日間開所している。その間、来場者数は、令和元年度に比べ、2万174人から7,593人となり3分の1程度に減っている。また、売上げについても、令和元年に464万800円あったものが、173万7,870円へ約290万円減少している。

○コロナ禍で休館中のリサイクルプラザについては、感染防止の対策を考えながら、早期に再開されたい、との意見。

8 款 土木費

○開発許可面積が8万平方メートルから約6万平方メートルに減っており、25%減ということは、大規模な開発や、小規模家屋の建設は頭打ちの傾向にあると捉えていいのか。

●開発の許可件数自体は変わらない。戸建てのものが増えている。申請件数自体はそれほど変わっていない。

○街路樹の管理委託について、大木化し、剪定が必要なところが市内にたくさんあると思うが、剪定についての判断は誰がするのか。

●柏原方面と狭山台方面、また入間川・奥富方面の3ブロックに分けて発注するが、発注に向け、職員で判断が難しいものについては、造園業者の意見を取り入れながら対応している。

○大木の剪定は大変だと思うが、市民の安全を第一に考え、積極的に進められたい。また、道路補修維持管理の包括民間委託を進めることになっていると思うが、街路樹剪定も踏まえた検討をしていただきたい、との意見。

○都市計画マスタープラン推進費について、前都市計画マスタープランとの違いは。

●大きな違いは、前都市計画マスタープランは人口の増加が予測される中で策定している。各分野の施策についても、整備、拡充の取組が多かった。今回は、各事業の施策の検討、実施に向け実効性がある計画として策定したもの。

○狭山市駅加佐志線については、用地取得したところもあるので、工事を進めれば用地交渉に応じてくれる地権者も多くなってくると思うがどうか。

●用地の取得も進めているが、それと並行して道路整備を進めるための課題となる雨水処理施設等の整備について取り組む必要があり、接続先の水路を管理している所管課との協議調整を行い進めている。

○狭山市駅加佐志線の用地取得については、令和2年度までの事業として、57%が取得見込みであり早期に工事を進め、開通に向けて早期に事業の展開を図られたい、との意見。

○笹井柏原線の用地取得見込みは令和2年度に90.47%、令和3年度に100%となっているが、予定どおりに進捗するのか。

●用地取得は現在も進めており、令和3年度の予定箇所についても、既に地権者等の契約手続を進めているので、支障なく進んでいくと見込んでいる。

○令和2年度の工事の進捗という点では、計画どおり進んでいると考えてよいか。

●令和2年度から繰り越した雨水管の工事等は、もう少しで完了予定。その他の今年度工事も、既に発注済のものもあり、未発注のものも順次発注する。

○令和2年の緊急事態宣言の時、公園関係でクラスターが起きたことはあるか。

●クラスターが起きたことはない。

○令和2年度末の、市営住宅の空室戸数は何件か。

●令和3年3月31日時点の空室戸数は、101件。

○空室戸数を埋める施策はとったのか。

●市営住宅の入居の条件については、令和2年4月から在住者のほかに在勤者も対象とし、令和2年度には在勤者の応募はなかった。令和3年度の6月の定期募集に、在勤者1名の申込みを受け付けた。令和2年度4月の改正が入居の促進に結びついたと考えている。

要望指摘事項

1. 地球温暖化対策は市が率先し、CO₂削減の目標値を管理・分析するとともに、市民、各種団体、産業界と一体となり推進されたい。

2. 通学路の安全性を確保するにあたり、車の速度を抑制するため、ハンプ等の導入に向けた検討をされたい。

議案第79号 令和2年度狭山市水道事業会計未処分利益剰余金の処分について

○水道料金を上げる状況でなく、安定した経営状況と考えてよいか。

●収益で費用を賄い、利益も出ている状況であり、県水単価の値上げがあるまで、できるだけ料金改定は行わず、経費節減に努めたい。

○令和3年度の工事で鶴ノ木浄水場の耐震化は終了でいいか。

●令和3年度で全て完了する予定。

議案第80号 令和2年度狭山市水道事業会計決算認定について

○配水管改良工事、耐震工事等について、令和2年度の実績と、到達度は何%くらいになるのか。

●管路については、令和2年度末で、基幹管路が49.5%、配水支管が92.3%。全体では85.4%となっている。浄水施設については、今年度実施予定の鶴ノ木浄水場の耐震化工事を除き12%となっている。配水施設については、81.5%である

議案第81号 令和2年度狭山市下水道事業会計未処分利益剰余金の処分について

さしたる質疑なし。

議案第82号 令和2年度狭山市下水道事業会計決算認定について

○有収率向上を目的に不明水の調査業務などを実施した際の調査の内容、結果、それを受けての対応は。

●不明水対策は、ストックマネジメント計画で計画された点検調査の中で実施し、主に入間川地区において行った。今後の不明水対策については、流量計を設置し、具体的に不明水が多い地点の調査を行う。

○経営指標として、下水道事業収益に見合った起債残高になっているか。

●経営戦略計画においては、処理区域内人口1人当たりの起債残高の目標を9万円以下としている。令和2年度の1人当たり起債残高は7万7,628円で、起債残高は年々減少している。

○次期計画改定の際は、1人当たり起債残高の目標を引下げされたい、との意見。